

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は東日本大震災の影響が一部にみられるものの、緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

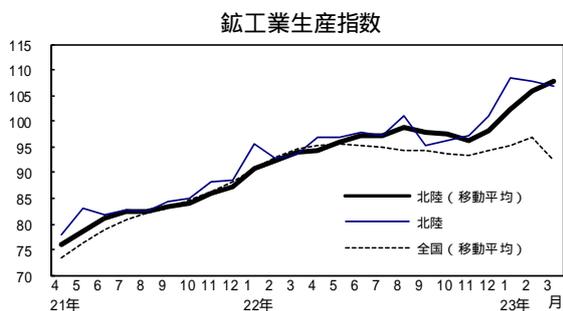
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 23 年 2 月)	今回 (平成 23 年 5 月)	
個人消費	持ち直し	<u>おおむね横ばい</u>	
住宅建設	増加	<u>大幅に増加</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は東日本大震災の影響が一部にみられるものの、緩やかに持ち直している。

一般機械は、建設機械で海外向けが堅調に推移しているほか、電子部品・デバイスもスマートフォンなどの情報通信機器向けが高水準で推移している。ただ、足元では、東日本大震災の影響による部品調達難によって、一部で生産調整の動きもみられている。化学は、医薬品を中心に増加が続いており、金属製品もリフォーム向けを中心に持ち直している。繊維は、衣料品向けが増加する一方、非衣料品向けは東日本大震災による影響などにより、減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は確報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

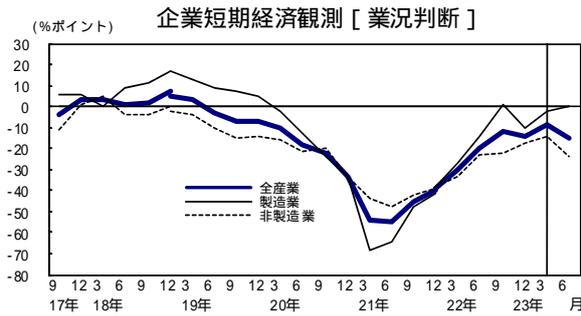
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	16.2	6.4	21.9	-	-
電子部品・デバイス	15.8	1.6	6.4	-	-
化学	14.5	3.3	14.3	-	-
金属製品	9.2	0.4	8.2	-	-
繊維	8.5	2.3	4.3	-	-
鉱工業	100.0	0.2	9.8	-	-

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

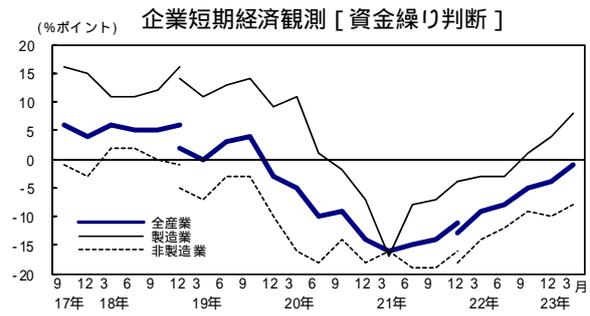
2. 1~3月期は確報値。

3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

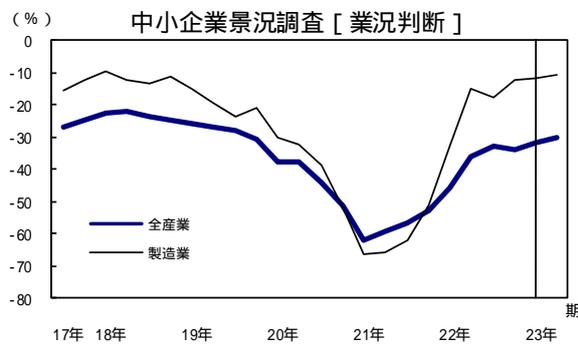
(2) 業況判断、資金繰り判断
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

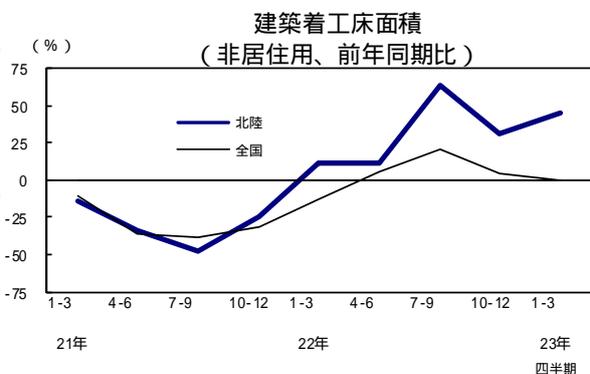
「受注価格競争は依然としてし烈である。採算を確保しての見積、入札価格では、ほとんど受注が見込めない状況で異常な価格競争が続いている(建設業)」など、「悪くなっている」とする回答が多く見られた。

(3) 設備投資

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績見込み	23年度見通
全産業	14.8(6.4)	13.6
製造業	19.0(9.2)	23.7
非製造業	3.6(3.1)	17.5

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

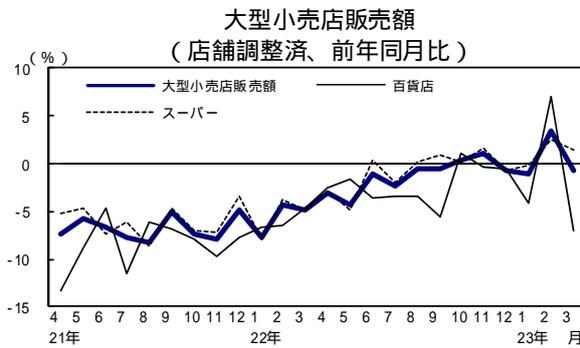
(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

百貨店は、1月は、天候にも恵まれ初売りが好調だったほか、気温の低下が後押しとなり冬物衣料品などに動きがみられたものの、下旬の大雪により入店客数が減少し、全体では前年比低下幅が拡大した。2月は、1月下旬の大雪の反動があったほか、好天が続いたことで客足が伸び、春物衣料品などに動きがみられたことから、前年を上回った。3月は、上旬の気温の低下により春物衣料品の動きが鈍かったほか、東日本大震災の影響による自粛ムードの広がりや消費者マインドの低下により、前年を下回った。
スーパーは、東日本大震災の影響により、飲食料品や防災関連用品が好調だったことなどにより前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「全社的に見れば売上目標数値に到達した。年度末需要の残りが受注につながったと見ており、基本的には例年どおりである(一般小売店[事務用品])」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

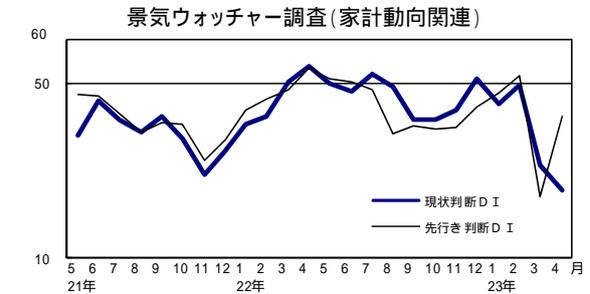
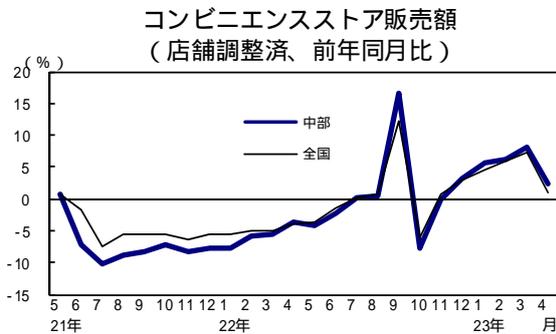


	(前年同期比、%)			
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月
大型小売店	2.8	1.2	0.2	0.5
百貨店	2.6	4.1	0.0	1.9
スーパー	2.9	0.3	0.2	1.1
乗用車	24.2	13.1	29.2	26.8
景気ウォッチャー	50.6	47.5	45.6	42.0

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

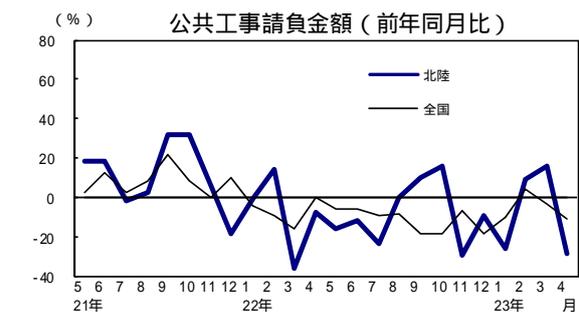
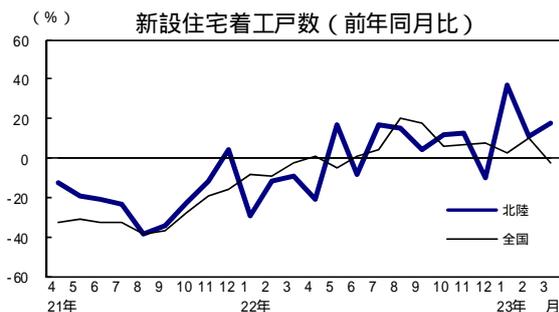
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家で前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見るとほぼ同水準となっている。

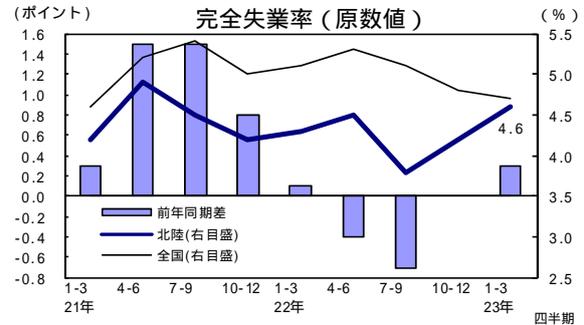
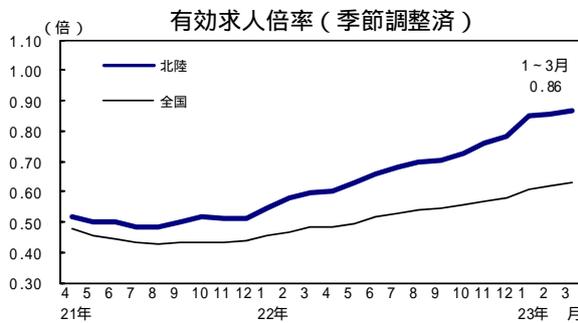


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。3月の新規求人数は減少している。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

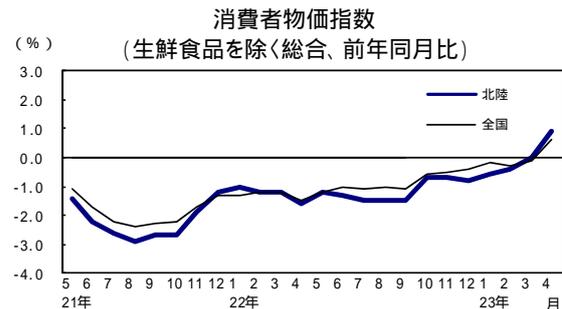
「求人数は少しずつ回復傾向にあるが、採用に慎重な会社も多く、全体としては特別な動きは見られない (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年4-6月	7-9月	10-12月	23年1-3月	23年4月
倒産件数	74	100	77	78	30
(前年比)	28.2	6.5	34.2	3.7	11.1
負債総額	143	307	282	173	47
(前年比)	31.7	27.1	31.1	40.6	3.9



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・家電エコポイント制度終了に伴う落ち込みを予想したが、テレビ、エアコン、冷蔵庫全ての売上が前年同月を上回った。単価の下落はあるが数量が大きく伸びた (家電量販店)

<先行き>

・東日本大震災の影響によるイベントなどの自粛は、2~3か月先には収まり、徐々にではあるが復活するであろう。たばこも入荷が少しずつ増加しており、2~3か月先には安定した入荷が見込める。現状より悪くなることは考えにくい (コンビニ)

